

## 下関市工業用水道事業の紹介

### ○事業の主旨

下関市では、戦後工業地帯として急速な発展をとげた市内大和町・彦島地区には、工業用水道が整備されてなく、上水を供給している状況であった。

当時、市勢の伸展に伴い上水の需要量が、年々増加の一途をたどっており、上水をできるだけ一般市民のために確保することが、上水道事業の管理運営のうえからも重要であり、また、上水を必要としない工場等には、安価な工業用水を供給することで産業活動の発展にも有益であることから、本市においても重化学工業・製造業の工場が林立する大和町・彦島地区からの工業用水の供給要請を受け昭和44年に設立したものである。

### ○事業の経緯

下関市工業用水道事業は、本市南部の大和町・彦島地区からの工業用水の供給要請を受け、本市上水道事業の水源である綾羅木川水系を水源とし日量20,000m<sup>3</sup>の給水を可能とするため、昭和44年1月に工事着手し、同年4月から給水を開始した。また、本市の企業誘致政策が積極的に行われた結果、本市東部の小月地区にも企業進出があったが、工業用水は未整備であった。このことは、地域産業の発展、更には市民の生活水準の向上等にも大きな阻害を生じるものとして、本市小月地区にも早期の工業用水道開設が必要とされ、昭和45年4月に日量4,000m<sup>3</sup>の給水能力を有する下関市小月地区工業用水道事業を開設し、同年10月に工事着手し、翌11月から給水を開始した。

下関市工業用水道事業は開設以来、順調に契約水量を伸ばし、給水能力を超える要望があるほどになり、開設当初の水源では、将来の需要量に対して不足を生じるおそれがあるので昭和47年9月より綾羅木川水系から拡張性のある木屋川水系へ変更した。

一方、下関市小月地区工業用水道事業は事業開始以来、契約水量が2,000m<sup>3</sup>/日から伸び悩み2,000m<sup>3</sup>/日の未売水を保有し今後も新たな需要が期待できる状況ではなかったため、両事業の安定した運営を目的として、平成元年4月に下関市小月地区工業用水道事業を下関市工業用水道事業に吸収統合し、日量24,000m<sup>3</sup>の給水能力を有する現在の事業形態となった。また、平成17年2月には下関市が、近隣の4町（豊北・豊浦・豊田・菊川）と合併し、新たに下関市となったが、主要工業団地には山口県企業局の木屋川工業用水道が整備されており事業形態に変更はない。

本市工業用水道事業は、平成19年度で創設から38年が経過する。現在、企業の撤退などにより未売水を抱えており、この未売水の解消とともに配水管の更新目安としている法定耐用年数が間近となり、配水管の計画的な更新が重要な課題となっている。経営面では、毎年見直している長期財政計画に基づき健全な事業運営を進めているが、今後においても、未売水の解消とともに工事の単年度集中を避けるなどして、効率的かつ健全な経営を推進し、工業用水の安定給水に努めて行く。

### ○ユーザーの概要

(平成19年11月末現在)

業 種	給水件数	契約水量 (m <sup>3</sup> /日)
食 品	1	5,200
化 学	1	6,300
金 属	1	7,000
機 械	1	1,500
その他	2	2,200
合 計	6	22,200

○工業用水道施設の概要

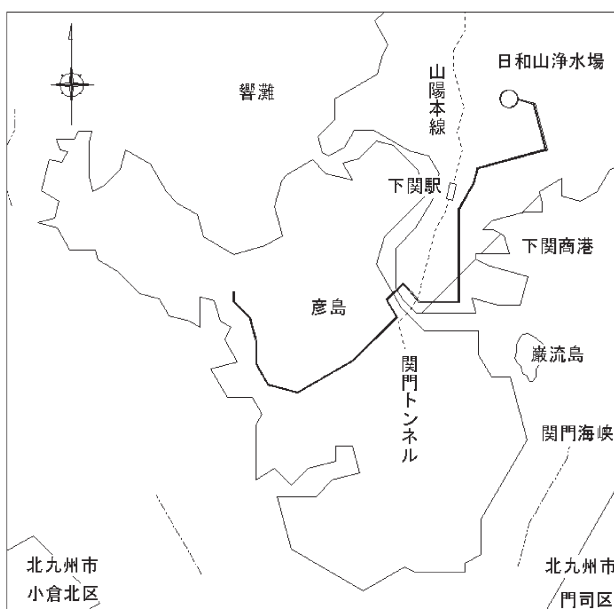
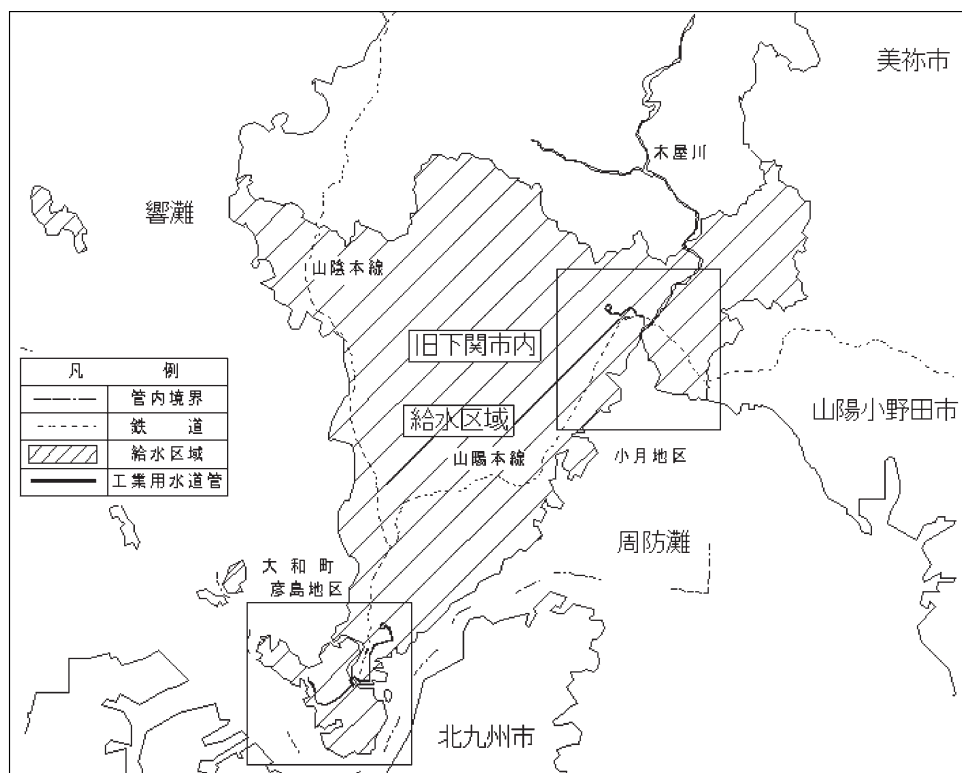
本市工業用水道事業は、原水水質が良好であり浄水処理を必要としないため、未処理水を市南部と市東部の2地区に供給している。

市南部の大和町・彦島地区は、配水管延長約7,200m、管径φ500～φ400である。市東部の小月地区は、配水管延長約2,300m、管径φ300で供給を行っている。

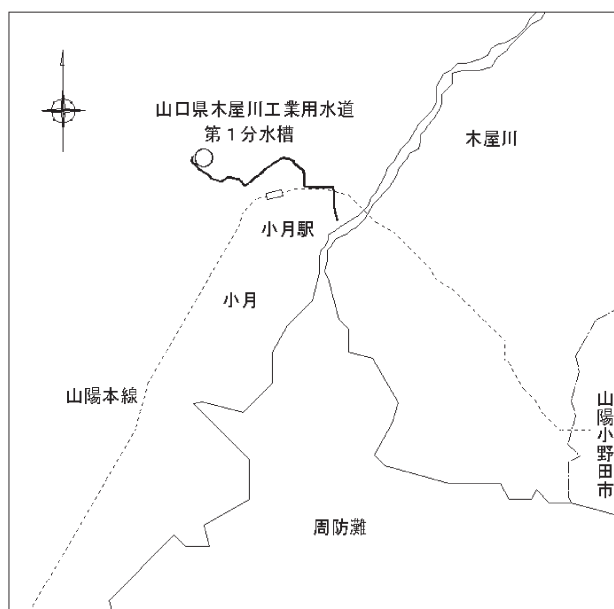
○事業の特徴

下関市工業用水道事業は、独自の水源がなく、木屋川工業用水道から日量24,000m<sup>3</sup>の供給を受け契約企業に供給する卸供給である。

○給水系統図を含む給水区域図



大和町・彦島地区



小月地区